

世代間交流機能を重視

上士幌・生涯学習センター改築

【上士幌】町は2015年度に建て替える予定している生涯学習センター（旧児童会館部分）の改築基本計画をまとめた。基本コンセプトは、まちが「町民が「元気になる」集いや出会いにあふれる「ふれあいの場」。世代間交流を軸に少子高齢化社会に対応する施設を造り、新たな地域コミュニティの構築を目指す。

事業費8億円

同センターの改築は今後50年を見据えた一大事業。コンパクトな街並み形成の視点から、改築に合わせて、町内に点在する公共施設の再配置も行うこととした。これまで町は、町公共施設整備基本構想アドバイザーの森傑教授が所属する北海道大学、NPO法人「上士幌コンシェルジュ」と協力し、町民アンケートやワークショップの実施などを通じて改築計画を進めてきた。

改築に伴い、発達支援センターと青少年会館（学童保育所）、高齢者生きがい

センターを生涯学習センター内に統合する。また、同センター新館部分の改修も実施する。

基本コンセプトを設定した上で、①世代間コミュニケーションを生む場②ふらっと立ち寄りたくなる魅力あふれる場③さまざまな活動を感じる活気あふれる場の3つを基本方針に据えた。

学童は子供、生きがいセンターは高齢者のように、統合予定の各施設はそれぞれの世代が交流できる場がないことから、世代間の関わりをきっかけとなる場所や仕掛けを図る。また、商店街に出掛けたいでや散

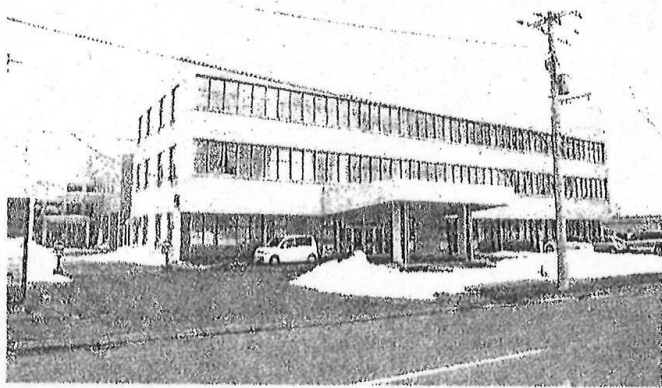
基本計画策定へ 青少年や高齢者施設統合

基本計画策定へ
15年度着工

歩、井戸端会議の場、特に目的がなくてもふらっと立ち寄れるような施設造りを目指す。

建物は2階建てで、延べ床面積は約2200平方メートルを想定。町民が普段利用するスペースは1階に集約し、事務所などは2階に配置する。

具体的には1階に、利用頻度の高い現在の201、202号室に相当する会議



新館部分
児童会館部分で、左奥が

室、老人サロン用にカーペットを敷いた会議室、カラオケやダンス、バンドなどに使う会議室、陶芸室、調理室、学童保育所、発達支援センター、プレイルームなどを配置。共用部空間にはカフェ、ギャラリー機能も備える。2階には消費者協会の事務所や会議室、書庫を設ける。社会福祉協議会事務所は新館の旧コンピュータ室に移転する。

計画敷地面積は4500平方メートルで、敷地内の発達支援センターは解体する。想定事業費は解体費や外構整備費、新館改修費を除いて現時点で約8億円。2014年度にプロポーザル（民間による公募企画提案）方式で基本設計、実施設計を行い、15年度に着工する予定。供用開始は16年度になる見通し。

竹中真町長は「新たなまちづくりの拠点として、いろいろな可能性を持った施設にしたい」と話している。（津田恭平）

3/25 勝一